常磐毎日新聞

日刊

十二月二十一日夕刊

定價 一部金貳錢 一ヶ月金五拾錢 郵税五厘
廣告料普通一行五拾錢、場所指定一行七拾錢
日曜祝祭日の翌日休刊
發行兼編輯人印刷人 坂本泰[illegible]
編集局 平町・長橋町三五
發行所 常磐毎日新聞社 電話 六三〇番
印刷所 常磐毎日印刷株式會社 （振替口座）東京 四〇二一〇番

印刷の御用は
常磐毎日印刷株式會社へ
電話六三〇番

縣下唯一の保健所
愈よ店開き
一週間に三回無料診療
勤勞者の爲め特に夜間
▽……來月中旬頃開所式

既報去る六日假事務所から八幡小路元磐中グラウンドの新廳舍に移轉した縣下唯一の平保健所は其後諸般の設備を急いでゐたがけふ全く完了、いよ〳〵明二十二日から一般事務を開始することになつた當分の間無料診療及び相談日は毎週月、水、木、曜日（祝祭日は除く）と決定したが晝間勤勞者のため特に毎月一回第一金曜日午後六時から八時迄夜間相談を行ふ由尙開所式は明春一月中旬を期して擧行する筈

小包郵便大激增
輸送上に萬全を期し
▽……成田主事が語る

在支將士に對する中支方面への軍事小包郵便物は暫く中止されてゐたが既報の如く去る十日から中止方面の復活と南支方面への取扱ひ開始と相まつて歳末贈答小包み郵便のためその取扱ひ數に著しき增加を來しこれが處理に平郵便局では忙殺されてゐる、右に就いて成田主事は次の如く語つた

年內の差出小包み郵便は努めて速かに年內に配達するやうこれが遞送便にも十六日から臨時增便が開始され輸送上に萬全を期してゐるのだから折角差出した小包も年內配達にならぬやうお早く差出すやう希望します

防犯週間
平署の努力

歳末を控へての犯罪防止週間はいよ〳〵二十日から縣下一齊に實施されたが平署では講演會や映畫會を開き防犯思想を普及する外署員を動員して歳末特別警戒を開始、犯罪は勿論時局を冒瀆するものの取締りや夜の街の警戒を嚴重にしてゐる

もろ肌拔きで……
恩師數名を恐迫
喧嘩の罰金と稱し
斷られてタンカを切る

內郷村大字宮字竹ノ內日野炭礦電捲手大武武雄（二七）は今二十一日邸宅侵入、恐喝罪で平署に檢擧されて目下取調べを受けてゐるが同人は本年三月中恩師の內郷村第三小學校訓導榊原つるさん方を訪れ「喧嘩をして罰金四十圓に處され金に窮したから貸して貰へたい」と申出拒絕されるや双肌脫ぎとなつて脅かし金一圓を受けた外同樣手段で同校訓導である佐藤秋雄氏、庄條八右衛門氏、佐藤淳一氏、眞岡イサさんから相當の金を恐喝したことが發覺したものである

露店商人達にも
商店法を適用する

商店法も露店商人にだけはお目こぼしの態度にあつたがこれを奇貨とし十時すぎに街頭へ出る、不心得ものや一部眞面目な業者からの反對もあるので縣では全國に卒先二十四日を期し平市も福島、若松、郡山の三市と共に露店商に商店法を適用することになつた

勿論そこには特殊營業としての飮食店が除かれ實施期日も發令の日からとなつてゐるが歳末の今年中は他商店と同樣深夜營業は許される譯である

應召商業者
援護委員會

本縣應召商業者營業援護委員會はこの程結成されたが菅沼平市長は委員に草野同產業課長は幹事に囑託された

同委員會は應召商業者の營業繼續援護を目的に結成されたものである

學校打合會

市內各小學校の第三學期行事打合せ會は二十四日午前十時から第一校會議室で開かれる

市內の洋品商も
商業組合を結成

平市內の洋品商は既報の如く打つて一丸となり「平洋品商業組合」を結成することになり猪狩庄平、馬目勝次郎、室橋玉吉、中野庄吉、山家重吉、北林辰藏、橋本義司の六氏が發起で目下諸般の準備を進めてゐるが拂込みは一口二十圓で今後の事業は共同仕入、同保管、統制事業、指導研究調査、表彰等である

暗渠費寄附

市內鎌田町では市の土木事業暗渠費のうちへ九十八円を寄附した

遺言の寄附

四倉町仲町鱗屋醬油店方鈴木甚八氏はこの程死亡された祖母の遺志により各種團體に百五十円を寄附した

赤井慰問袋

赤井第一國防婦人會ではこの程勞力奉仕や映畫會によつて得た金で鄕土出身將兵全部に慰問袋を兒童の慰問文とともに發送した

小名濱支局通信

菅原支店長とはこんな人

支局長 小野務平

鮎川資本系統に連絡があり全東北の水產業を制壓してゐる日本水產株式會社小名濱冷凍工場は去十月前工場長松山金造君に代つて菅原力之助君が赴任した、秋山君の圓轉滑脫に換ふるに豪放不羈の菅原君を据へたと云ふ事は小名濱工場の將來に希望を置き一擧商港完成後に重大使命を制壓するに相應はしき人物を配置したのであらうと云ふ風評は又赴任せぬ前からの取り沙汰であつた、記者は不幸にして其風貌に接するの機會を捉へ得ず風評の耳朶に觸るゝに任せて來た、偶々會見の必要起り火曜日正午近い十一時半其工場事務所に顔を出した

事務主任の遠藤君に工場長との面會をもとむると今工場廻りで冷凍庫の方に行つたと云ふので給仕さんを走らした、待つ數分、巨大の体軀を然かも輕々しく運び來つて、サアと案內腰で場長の室へ連れ立つた刺を出せば隙もなく小野町長とは御親戚かと問はれた、其輕妙な應接振りは便々たる太鼓腹から落ちかかつたズボンを引揚げながら椅子にどつかと据り込むでこの一問には聊か先手を打たれたかの感を深からしめた

記者は徐に初對面である點から町長との關係を一通り述べ來るべき第二陣の外交辭令を待ち構へた、菅原君は初對面の記者に對して些少の城府を設けない、先づ小名濱工場の不振の現況から說き興し、工場が其の活躍を試みれば地方小商人に影響する所が甚大である爲めに茲に冷藏する鮮魚は皆本町以外の漁場から高い運賃をかけて買入れをやて居る、そして其冷凍魚は軍納の一途で利益が制限されて居る關係で却々利益を見る事も出來ず赤字續きで支店長會議などでは何時も頭が揚らない、これでは充分諸君のお交際も出來ぬと結むだ其談話振りの聞くものをして威壓するに足る緊張一寸の隙を見せぬ外交陣秋山君の丹頂と巧辯とに比し、菅原君の覇業從橫談論風發、相手が强敵を示せば之れだけ自己の潛勢力を發揮すると云ふ無限の力を噴湧せしむる自由を有する論陣には誰が抗しのべきぞ、該を轉じて赤字と稱する工場には現在幾千得在庫品が貯藏さるゝやの記者の問へに對しては不要意か否かは知らぬが十萬圓內外でありこれは豪勢なるものですねとやれば、十萬円だけではどうにも爲らぬ、これを二、三回轉換せしめて初めて工場の機械が滿足に廻轉せしむる事が出來ると云ふ結論に到達した

赤字に終始する該工場が少くとも卅萬圓の資本の運轉をする、それが赤字征服でなくて却つて赤字向上なれば誰が進んで回轉を畫策しうか、これ君の赤字なるものには遠い掛引の存する在つての謂所赤字外交で其與に蹈る黑字增進たる事はこの談話中に盜動して居る事を發見し得た菅原君のこの巨魁なる体軀に宿る旺盛なるイネルギーなるものの發動こそ赤字征服の上に黑字增進の方途に出づるの秘策に至つては、赴任と同時に胸間に渦卷いて居る動きのない方針で、それは如何に隱そうとしても臀穗を出すと云ふ結果になるので其外交的辭令の微妙なるに只々敬服を禁じ得ず、再會を樂しみとして辭去したのであつた

玄關口から
平市を覗く
荷動き不活潑
聊か手持ち無沙汰

石城地方に於ける經濟界の玄關口、平驛から覗いた今年の師走景氣……例年なら師走も半ばを過ぎてることゝて平市を始め各町の商店では大賣出しに餘念なく「景品つき」の宣傳戰は目まぐるしい程だつたが今年は各地とも派手な催しを禁じられてるべく銃後民の購買心をそゝらぬことゝした關係から平驛の小荷物、貨物の動きは極めて不活潑でいづれも昨年に比べ四割方の減を示してゐる即ち發送が減じれば到着も減じるといつた譯で驛としては赤字を招く樣な始末で驛員達はこれも國家非常時の際だからと觀念はしてゐるがそれでも聊か手持ち無沙汰には「これでも困るワイ」とストーブ會議に花を咲かせてゐる

歸鄕の寄附

四ツ倉町新町酒類商舟生唯一君（二二）は現役志願により過般入營したが疾病のため歸鄕を命ぜられせめてはと新町銃後會に三十円青年團に十圓を寄附した

小名町議
大學出縣
道路の陳情

既報―小名濱町の產業道路である小名濱港より泉驛に通ずる縣道鋪裝工事實現運動のため十九日午前十時高木助役先導町議全員大バス一臺を驅つて出發、縣議小野町長案內の許に君島知事初め關係各課長並びに政民兩黨の支部を訪ね縣會通過の運動を試み昨日歸町した

貯蓄獎勵
植田町講演

植田町の貯蓄獎勵講演會は今二十一日午後六時から同町小學校講堂で開かれる

植田の防犯

植田警察署主催の防犯座談會は二十一日午後一時より同署に於て開催した出席者は二町八ケ村各種團體長及各組合長、消防組頭校長等であつた

砂塵渦から
兒童を護る
板塀の建設費寄附
繰網組合美擧

小名濱町揚繰網漁業家より成る小名濱揚繰網漁業組合は組合長に野崎貞行氏を推し該業家の親睦と業務進展に資する處あつたが該組合に於ても時局柄進むで銃後の赤誠發露の一端として小學校北校舍との空間から吹き荒ぶ寒風の爲めに校庭を吹き捲くる砂塵は兒童の保健上甚だ憂慮すべきものありとなし之を防遏する板塀を建設し其痛苦から救出せんことを企て其建設費を寄附することに決したがこれは兒童の體位向上にも最も適切な設備であると一般町民から感謝されてゐる

磐女

冬季休暇に
各種講習會

磐女では今冬季休み中左の如く各種講習會を開くことになつた

△マッサージ―十二月二十六日から二日間△國語、數學、歷史、音樂、習字―十二月二十五日から五日間△裁縫一月四日から四日間

小名濱
唱歌會

小名濱町小學校では二十三日午前九時より年中行事の一たる全生徒の唱歌會を催を事となつた、指導用の擴聲機を利用し校庭に於ける大行進と併行する唱歌會は父兄間に稱讃され盛會を今より豫想されてゐる

發明協會の
代用品研究
廿三日に座談會

帝國發明協會本縣支部主催代用品發明研究座談會は既報の如く來る二十三日午後一時から平市役所會議室で開催されるが當日は工場關係方面委員、各學校等から多數參會を求め趣旨の徹底を圖る筈

無罪が確定
互融會の事件
檢事の控訴なし

既報―無罪の判決を言渡された平市才槌小路石城中小商工互融會專務理事吉田昌弘（四八）に係る「業務上橫領事件」は檢事の求刑が懲役二年であつたゝめ控訴問題に關し各方面から注目されてゐたが遂に檢事の控訴なく期間滿了の今二十一日右無罪の判決は確定した

運轉手
合格者

過般施行された自動車運轉免許試驗合格者はこの程發表されたが地方關係者は左の如くである

△平―渡邊喜一、野崎五郎、桑原好己、薄葉鐵右衛門 △植田―橫山義藏、齋藤英春

四倉町早くも
警防團を組織
意見が一致し人選中

四倉署では十九日午後一時から同署會議室に町議消防組幹部、防護團幹部の參集をもとめ近く勅令を以て公布されることになつた警防團組織の件について協議會を開き種々意見を聽取したが時局重大の折柄その實施の早きを望むとの意見一致し目下人選中であると

農業檢定合格の
蔭に麗しい師弟愛

錦村字綾ノ內志賀傳一君（二二）はこの程發表された中等教員農業耕種科檢定試驗に合格したがこの榮冠のかげには次のやうな師弟愛が織込れてゐる、志賀君は父傳造さんが養蠶教師で他所出がちなため母ひろえさんを扶けて一町三反步の田畑を耕作しかたはら同村字江栗鮫南實務女學校長水品敏麿氏に師事去る十一年農業專科正教員試驗にパス鹿島、高久兩小學校を歷任その間引續き水品氏の教導をうけ本年度の中等教員農業耕種科檢定を受驗し見事豫備試驗に合格したものである

時に父傳造さんは胃病を患ひ衰弱甚だしいのをみて水品氏は一日志賀君を招き「君の父は重体である、しかも君は甲種合格で入營せねばならぬ身体いま試驗に落ちれば永久に父を喜ばす機會を失ひ不幸の子となる石に嚙りついても合格せよ」と激勵、同君は神社に日參して合格を祈り遂にその榮譽をかち得たが通知を待たず去月三十日〇〇に入營のため出發した、十五日夜合格を知つた水品氏は傳造さんの枕頭にかけつけ合格の快報を傳へたところ同氏の手を握つて感謝翌十六日午後三時安心してか病昂じて不歸の客となつたといふ十八日葬儀が執行されたが村民はこの麗しい師弟愛の話で持ち切つてゐる

床屋休業日

四倉町理髮組合は同町に於ける各商店が商店法を實施公休日を毎月十五日と定めたので從來の十七日を十五日に變更各商店と同樣休むことになつた

經濟更生
好間村指導

十三年度經濟更生特別助成村好間村の更生事業樹立實施に關する特別指導は來る二十三日縣經濟更生課の磯部主事補により行はれる

教務主任會

廿三日午前十時から平市第二小學校に開催さるゝ郡教育會主催の教務主任會に小名濱校から西山校長、增子首席出席の筈

天氣豫報

曇後晴れとなるべき本日の天候は昨夜來より北高南低の度を大ならしめたる爲め琉球南沖から八丈島東にかけて七五六ミリの小低氣壓現はれ不連續線の影響となつて今朝來細雨に化したが氣壓は東高西低の傾向がありこの程度で雨も歇み明日は天候恢復して碧空が見るに至るだらうと

平市人事

◎出生

△長橋町四五近內勘藏氏長男忠良君

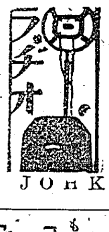
◎婚姻

△上平窪字原田一〇五岡部茂氏（三八）宮城縣牝鹿郡蛇田村字揚廐原四〇加藤まさのさん（二七）

◎死亡

△撥槌小路一高久又三郎氏父乘五郎氏（七四）

△三町目三〇小島藤右衛門氏妻イネさん（四九）



今晚の部

▼後六、〇〇 お話「雪」畠山久尙

▼後八、〇〇 絃樂五重奏「絃樂五重奏曲ト短調K五一六番」フイルハーモニー・クワルテット

▼後八、四〇 漫才「報國此一錢にあり」一立美末

▼後九、〇〇 連續ラヂオドラマ「旅順攻圍軍」藤田研二外

明日の部

▼後〇、〇五 落語「熊さんの國策」蝶花樓馬樂

▼後八、〇〇 管絃樂「ソナタ形式による交響曲の第一樂章」日本放送交響樂團

▼後八、三〇 尺八「鶴巣籠」倉川蕭山

▼後八、四〇 俚謠「刈干切唄」宮崎縣高千穗町有志外

愛憎三度笠

吉川延作
瀧秋方畫

（148）……

雨　七

「斬るのか」

役人は、刀の柄に手をかけた大助の毅然とした態度に、たぢたぢと後退さる。

「已を得ぬ、然らば斬る」

鐵のやうに、響きのかたい聲であつた。

「然らば、役人に抵抗するのだな」

と、役人の一人がさけぶ。

「已を得ぬ」

「一生の恥を晒すが、それでよいか」

と、役人の上役らしい男が念を押す。

「已を得ぬ」

と、大助は繰かへした。

お縫は先刻から、この場を睨[illegible]する事も出來ないで、部屋の隅におろ〳〵してゐる。

その可憐な姿は、役人の目にもついたのか

「この女子は、何者ぢや」

と、彼に聞く

「女房ぢや」

と、只一語

「この女子にも苦勞をかけることになる、それでも後悔せぬと申すのか」

大助は、その言葉で愕然とした。が、武士としての永年の教育が婦女子に情を遺すを恥辱とさせる。

「ハ、ア、何を云ふ、男一匹、貴下自分の魂に聞え」

と、毅然として云ひ放つたとき、押入の內部で

「ワッ」

と、泣く男の聲、大助も役人も、思はず見合せた。同時に押入れがサクと開かれる。藤吉が、眼には涙を一ぱい含ませて、顔を眞赤にして

「恐れ入りやした旦那、もう、これで結構でさア、旦那、侍と云ふものは、一片路傍の人間に歸してよも……それほどにて下さる有難うございます」

と、涙をポロ〳〵と流してゐる。

この光景に、役人は[illegible]に打たれたのか、踏み込んで引つ捕える事もしないで、呆然として見守つてゐる、その瞬間に藤吉は得意の輕業・ヒラリと五尺の身體を一跳ね屋根を蹴つたのであつた。

藤吉が、屋根を蹴つたその音で不思議な夢はさめたのである。

「逃すなッ」

と、役人の一人が叫んだ、との時既に藤吉は廊下から、庭に庭からだいだいの樹の枝に飛びついて、台所の屋根にヒラリと飛びあがつた。

「おい役人、俺は今しばらく命が入用なんだ、さア、俺の[illegible]から追つて來い」

と、罵言雜言だ。

「何だ、役人を嘲弄するか」

と、役人は勿論、彼の後を追うた。それから役人は靜かに逃げ行く方向を見定めて、街路に出たもの丶、最後の一人は大助の行動を監視の役だつた。

大助から見れば、藤吉が逃げてくれた事が結局幸ひである。若し、彼が押入れから出て來なかつた場合、自分は役人を殺すか殺されるか、何れか、その一途に踏み込まねばならなかつたのだ。

が、藤吉が逃げたからとて、自分に責任がないとはいへない彼は稍躊躇し乍ら見張の役人に

「どうも、飛んだ災難だつた」

と、呟くと

「飯の種ぢやが、役所まで[illegible]ひたい」

と、役人が意地惡い一[illegible]ラリと投げる。

趣味

見比べますまい

西村 加壽子

人がどんななりをして居やうと、その人の勝手にしてゐる所、見比べる必要も悪口をいふ必要もないと思ふ。

これ〳〵お互に時局を認識し、一人とひとどこへ出かけるにも、一襲の着物ばかり着てゐようとも、粗末な下駄を履いて居ようとも、この人の行過ぎてしまつてから批評したりするのは、最もよくない事と思ふ。

と

同時に見比べて内心ホッと安心し、誇らしい態度をするなどは實に悲しむべき行爲だと思ふ。今日の問題として、つまらぬ虚榮をすつかり止めて貰ひたい。そして女性の各自が「買ひますまい」と同時に「ヂロ〳〵お互に見比べますまい」「笑ひますまい」をも是非實行して頂きたい。

やがては誰にも遠慮なく、今までの有合せ物で十分間に合ひ自由に出かけられ「買ひますまい」も自然と行はれるのではあるまいか。

女性服裝の非常時認識は「買ひますまい」と同時に「ヂロ〳〵とお互に見比べますまい」も必要とあつたが、痛切に感じさせられた。

女

性ツてどうして他人の衣服や身なりを、あんなにまでヂロ〳〵遠慮なく頭の上から足先まで、見つめるのだらう、そしてくだらぬおせつかいをしたがるのだらう。

女性の使命は家庭生活の整理

提唱する"スパルタ週間"

ドイツで……

新興ドイツの成人[illegible]の健康雑誌に「スパルタ週間を實行せよ」といふ非常時下のドイツ婦人に自制強化が求められてゐるます。これは現在の日本婦人にも非常に示唆される所多く、その綱目は個人的に應用してよい所があるものと思ひます。その大要を紹介してみませう。

×　×　×

家庭娛樂、社交は禁止されても、家事や仕事以外の關心は家庭生活の整理に向けられといふのです。

第一 は心の戸棚を整頓せよ。數ケ月も氣がかりになつてた事を片付ける——御無沙汰してた、親類へは電話で御見舞する、問題を整理する、書かねばならぬ手紙を書く——一日に一時間づつおひ〳〵になつてゐたことの整理に向く。

こうした一週間の後には心もせいせいして朗かになれるといふわけです。

第二 は心の修養で讀書を伴ひ必ず行ふ。これは前の整理を妨げぬ程度でこれまでに缺けてゐた方面の知識の補足、修養を行ふ。只この場合讀物の選擇は、娛樂ではなく何處までも教養補充ですから實用價値の高いものであること。

第三 は食事の簡單化。たとへば朝食（一）は脱脂乳一杯、果汁（砂糖なし）一ぱい（二）は林檎一個乃至二個、コーヒー又は紅茶（砂糖なし）白パン薄い一切れ（バタ少々）昼食は牛酪バタ少し付けた白パン薄い一切れ、冷肉、醋又は油でいためた[illegible]こと。

おやつは紅茶（砂糖なし）一杯、夕食はスープ、脂の無い肉四分の一ポンド、野菜（ソース類なし）多量、グリーンサラダ、果物。

右はいづれも食後の[illegible]の調整を目的としたもので[illegible]なたべ方はつゝしむこと。

第四 就寝前十五分づつは[illegible]を行ふもまた[illegible]に行ふこと。

これをまた毎朝起きた時に第一に行ふ。而して八時間乃至九時間は必ず眠ること。スパルタ週間は宿望の眼を十分に取る機會をも作ることなのです。

第五 鍋、釜、手、[illegible]のお化粧は三十分で片つけるのですが[illegible]に由の健康に注意し、[illegible]こと。

かうした一週間を過せば次の月曜からは心身共に朗かに若やいで戰線への前進をたどることが出來るわけですから、ひとりでに[illegible]を兼いてまたこのスパルタ週間を行ふやうになるといふのです。

主婦のメモ

胡麻醬を一週間續けて食べると驚くほど乳が出る。

○

山道を歩く時下腹部に力を入れて歩くと疲れぬ。

○

鷄肉の美味しいのは二歳鷄、[illegible]は味が落ちる。

火藥にまでなる綿ボロ

—家庭廢品の行方—

使用に堪へなくなつたぞうきん、糸屑、綿屑、便所の手拭などいはゆる綿ボロ類がついうか〳〵と棄てられて、東京市中のゴミ箱の中からだけでも年にざつとボロ二萬六千貫、紙ドとか足袋とか形のあるもので三萬七千貫餘、糸屑・綿屑が二千貫餘もあります、こんなボロがいま國策の線に登場して廢品どころか、重要な役割をしてゐます、一時は綿ボロがアメリカへ向けて輸出されその額が千八百萬圓にも及んだものです、綿ボロは形をかへて硬質ファイバーとなり自動車の部分品、化粧品の容器、セルロイド、ベークライトの代用品、輕金屬の代用品、[illegible]の原料等々に使はれて行くからです、行程の[illegible]いへばボロが集まるとこれは消毒の上、[illegible]により大別して洗滌、これを二十四五種に分け、[illegible]にかけて纖狀のものとなし、アルカリ處理その他諸行程を經てドロドロの液狀のものとなり、[illegible]さに乾燥し所要のファイバー原料を作るのです、初めボロがアメリカへ盛んに輸出される頃は何のために使はれるか知らなかつたのですが、日本でもこの化學工業が發達して今は盛んにボロが活用されてゐます、この外綿火藥の原料となつたり、再生されて綿ネル、綿毛布などに盛んに作られます、綿ネル綿毛布などになるものは

軍手 白地の浴衣、白足袋の[illegible]など白地で、よりの太いもので、これらは和歌山縣あたりへ持つて行かれて生産されるので、これらのボロは和歌[illegible]といつて平時にも大いに利用されたものです（中林會六氏談）

皮張りの簞笥のカビをとるには

濕氣の多い今年は、本物の皮張りの簞笥など取り出してみますと、カビが驚くほど發生してゐます、このカビをとるには、乾いた綿か布で強く拭きとつて丁寧にカビをとります、布をかへて二度三度拭いて、きれいにカビをとれましたら、次に植物性の油を布につけて拭きこみます、その面はベトベトにならぬ樣に、皮の手へ塗こませる樣に、よくのばすやうにくのです

實用インキは

—家庭でワケなく—

作れますよ

赤でも黒でもお好み次第

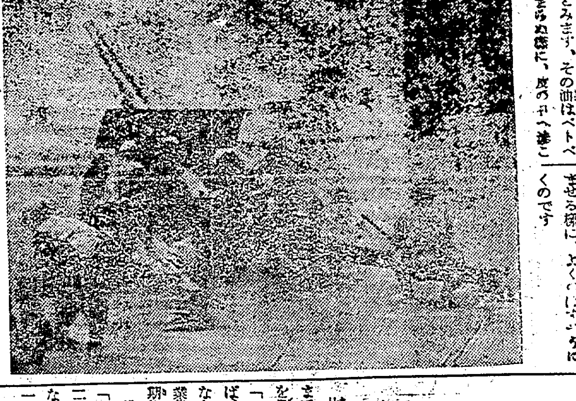
ペン書きに用ひる實用ブルー・ブラツク「インキ」の上質のものが經濟的に誰にも手易に[illegible]つくれます、まづ大きな瀬戸引鍋に水を五合五勺入れ、次に左の六つの原料を一つが溶けたら他の一つを溶かし込むやうにして記載の順序に入れ、竹箸で全部を同一狀態に溶かせばそれで出來上ります、染料店や工業藥品店の小賣で原料をお求めになるのに便利なため藥品の量をグラムで申上げますと

一、タンニン酸	二三グラム
二、没食子酸	八グラム
三、硫酸第一鐵	三〇グラム
四、アラビヤゴム	一〇グラム
五、インヂゴカルミン	〇・五グラム
六、鹽酸	二・五グラム

で、この内インキの主成分をなすものといへば最初の三原料で、空中の酸素と水とに化合して酸化し、[illegible]第二鐵と酸化しますがこれに黄白色の粉末であるタンニン酸と[illegible]の結晶である没食子酸が加はれば更に黒色のタンニン酸第二鐵と没食子酸第二鐵の沈澱物ができます。即ちこの沈澱物を利用したのがインキです

更にこれに白色の粉末となつたアラビアゴム（水に溶解せしめるは粉末に限る）をまぜ合すのはインキに適度の粘りをつけるためで[illegible]の色であるインヂゴカルミンの粉末を混ぜるのはインキ初めから相當の色を持たせんためです、以上の溶液の酸化を防ぐ爲に、最後に鹽酸を少量まぜますが、藥品値段はみな[illegible]とみれば十分でせう、若し「赤インキ」を作りたければ赤い[illegible]としての石炭酸を含有したエオシン二〇瓦とアラビアゴム[illegible]づつやはり右の順序に五合の水にまぜあはせば宜しいのです（東京府化學工業學校立田課二）

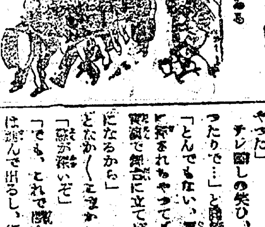
☆ ☆ ☆



軍國女性マンガ譜

レコード歌手の卷

サッとタクトが上る、朦然たる伴奏がそこに展開する、大砲の音、突撃の喊声、[illegible]やうな戰場の騒音、耳を[illegible]ばかりと、一瞬の[illegible]から放たれるやうなメよが…「[illegible]」、個人のコーラス・ボーイがあとに續く、しはぶき一つ聞えない靜けさの中で、いくつかの顔が[illegible]になつてゐる、やがて[illegible]、五分、サツとタクトが下り、レコード吹込は終つた[illegible]



[illegible]に共感してゐる、隣のミス・コロが涙を出してゐる

「ふつた〳〵ない」といへば

「思ひ出したの、この間、[illegible]ついた兵隊さんを[illegible]して歌つた時のことを…[illegible]の歌」をうたつて自分で泣いた」

[illegible]の笑ひ、「[illegible]つたりで…」と[illegible]したら…「とんでもない、軍歌は男性に[illegible]まれちやつてダメだが、一[illegible]で舞台に立てば、[illegible]五十になるから」

どなか〳〵[illegible]

「[illegible]が深いぞ」

「でも、これで[illegible]金コンサートは[illegible]んで出るし、街頭[illegible]は先陣を承つたし、これでも[illegible]のために盡してんのよ…」

と[illegible]ぶりだ。

祖國

堀 健吉作　畠野圭三畫

船の旅 二十七

片ひぢをテーブルについたまゝで、フオークにつきぬいた肉を口へ運んで行く老教師である。

「一度汽船に乗つた經驗さへあれば、さだめし二度目からは氣安くなれませう。生徒の方たちが、卒業後とし〳〵利用して下さるのを期待します」

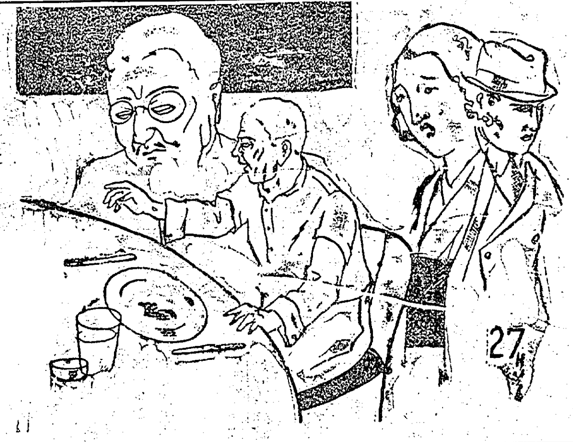
船長は上手に宣傳をやる。

「いや〳〵とんでもありません、二度の船旅なぞ思ひもよりません、なにしろ、これが一生涯における一度の船旅ですよ」

古參の伍長のやうなかんのにぶさで返事をする。

「[illegible]はいかゞです」

これに答へはじめた老教師は、この時とばかり中央にすわつた船長の方へ顔をむけてしやべりだした



「いや、[illegible]になりません。どんづまりですな。一緒にわたしの[illegible]の話を引きませう。實は今度[illegible]したのです。事情があつて、二度目の夫と五十四になつて今日別れたのです。[illegible]手は大變な物持だつたんです。散々その[illegible]さんくたばりかけたんで、[illegible]わたしの[illegible]を逃び出したんです。それがですよ、別れる時の手當つたらやせ[illegible]のよぼ〳〵一頭ともち米三俵だけですよ。わたしの[illegible]ではいくら不景氣だと云つたにしてももうすこし、米俵を十もつけんとは不都合だとおもひます。これは一すした[illegible]です、つまり不景氣がいけないんです。[illegible]によるんです、だからわたしはそのせいか知ら、都會の[illegible]を見ますよ、[illegible]ますよ（この時、[illegible]で夫人をにらんだ）しかし[illegible]における不景氣は一般です。新聞の[illegible]はあまりあてにならんさ、ですが、けだし[illegible]に近いものでせう。いや[illegible]ですよ、たしかに[illegible]です。[illegible]な服裝をしてゐるし、どん[illegible]な服裝をしてゐても、內輪はやはり苦しいやりくりださうですね」

このおだやかならぬ話に目を丸くした船長は、急に話をさへぎつて料理の方へ話をむけた。

ところで、老教師のそばで、肉を切りさくために皿をたゝきやぶるやうな音をたてゝゐた若い技師は晴れやかな顔をした夫人をあこがれの目で見やつた。

花模樣の紋を刺繍でぬひだした紋紗[illegible]青磁色の[illegible]の被物をつけた夫人の色白の顔と被物とを調和のいゝ自然さではこぶ[illegible]をなしてたまご色のえりがあつた。

自分のそばで自分の先輩が[illegible]のために二言三言しやべりたてゝゐるのにおかまひなしに、青年をいたはりながら胸をそらしてゐる夫人をあこがれの瞳り、だまつて見てゐるわけにはいかなかつた。

これは[illegible]長でも同じことであつた。若い教師は突然さけんだいやほえた。

「奥さん、ダンスを踊つてみせて下さい」

夫人は顔を赤らめて微笑んだ。[illegible]もおどろいた目をした。老教師の夫人へのあてこすりを不らちで聞きすてかねると[illegible]らしい[illegible]はこの時口をひらいた。

「僕の××事件の中心地はあなたの[illegible]でしたね」

効果は十分であつたと云ふのは老教師はフォークをなげだし食卓の上に両手をそろへて頭をさげた。

彼は自分の過失のやうにくいたみちたかなしい顔をした。

「いや全くおそれ入りました。なんとも申しわけありません。[illegible]のいたしやうはありませんだとも角（この時の彼の云ひ方は、知事のやうに責任を感じなさまだつた）この度のことでは[illegible]なんとかしてつぐなひをしまして奉公したいとおもつてゐます」

吸入用酸素 99%純度
度量衡 モノサシ マス ハカリ
計量器 體温計 寒暖計
秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス
關内藥局 電話四〇番
◈寫眞材料一式販賣致シマス

社員大募集
一、誰方ニモ容易ニ出來ル小口貯蓄保險
一、確定俸給及手當支給
一、無經驗者歡迎
一、希望者ハ履歴書持参面談
板谷生命平事務所
平市揺槌小路一 電話六二五番

メガネ専門の店
メガネは絶對信用ある當店に先づ御相談下さい………
平市本町二丁目 玉屋

平市田町
市原醫院 電話一一四番
市原卯太郎
市原陸郎
市原三男
（毎日午後二時ヨリ九時マデ）
内科、小兒科、一般外科、内臓外科、皮膚科、婦人科、花柳病科

根本産科婦人科醫院
平市南町五二
根本荘次郎
根本貞雄
【電話四三番】
（病室完備）
（入院隨時）

冬物は是非！當店から
（在庫豊富）
玉屋洋品店
平田町通 電話六五六番

吉田眼科醫院
平市紺屋町 電話八六番

花柳病科外科
木村外科醫院
平市六丁目橋際 電話三〇九

元東京市教育局學校衛生技師 醫學博士 岡田道一先生著
『育兒法と牛乳の用ひ方』
定價一部十錢でございますが赤ちやんのあるお母様方に無料で差上げたいと思ひます
御希望の方は遠慮なく御申込み下さい
岡田ミルクプラント
平市鎌田町 （電話五一番）

芳醇！ 美味！
たひら正宗
山崎合名會社 電話一〇番

鈴木醫院
平市田町 電話五八番

秋！食慾の秋！
季節向 なべやき 天ぷらそば
何卒御試食下さい、多少に拘らず迅速に配達致します
平市田町
やぶそば 電話四番

耳鼻咽喉科専門
大和田醫院
平市南町一六（電話一七〇番）

専門 花柳病科 婦人科 産科
▽入院隨意
井坂醫院
平市田町 電話五五九番

フケで頭の痒ゆい方に……
三共のサボイド石鹸の御使用をおすゝめ致します。
本石鹸は最上の原料により製せられた硫黄コロイド石鹸ですから、其他あらゆる皮膚病の方が用ひてよろしく、又、皮膚病豫防の目的にて常用されれば美容と衛生の上から非常に喜ばしい效果をもたらします。
1ケ20セン
三共株式會社代理店
西村屋藥局
平市本町二丁目 電話三番

◎診療科目
一、齒科一般
保存科、補綴科、繼續架工科
齒列矯正科、小兒齒科、齒槽膿漏科
一、口腔外科
一、レントゲン科
平市田町（松月堂向ヒ）
中野齒科醫院 電話五〇九番
院長 日本齒科醫學士 中野憲次
日大齒科醫學士 鹽谷伍郎
補綴部主任 佐藤重義